

『実感! マリンウィーク'04』について

マリナーやフィッシャリーナ、海岸及び漁港・港湾・河川・湖沼等を会場に、ボート・ヨット・パーソナルウォータークラフト(水上オートバイ:以下PWCと表記)などの体験乗船、ボート免許教室の実技体験乗船などを、小中学生や親子・家族などの地域の人々が、楽しく体験できるイベントです。

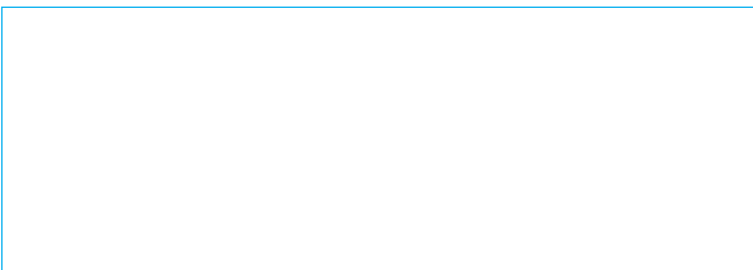
マリンウィークのイベントと市町村など地域で開催されるイベントとの連携を図り、より地域の活性化に寄与できるキャンペーンを推進していきます。

さらに、海事思想の普及振興を図るとともに救命胴衣の着用促進やゴミの持ち帰りキャンペーン等による安全や自然環境との共生についての理解の促進を図ります。

この冊子に掲載されているマリンレジャーに関わる基礎知識や解説などは、ホームページでもご覧になれます。

<http://uminohi.com>

『実感! マリンウィーク'04』実施主催者・団体



マリンレジャーの 基礎知識

実感! あなたの海さがし
マリンウィーク'04

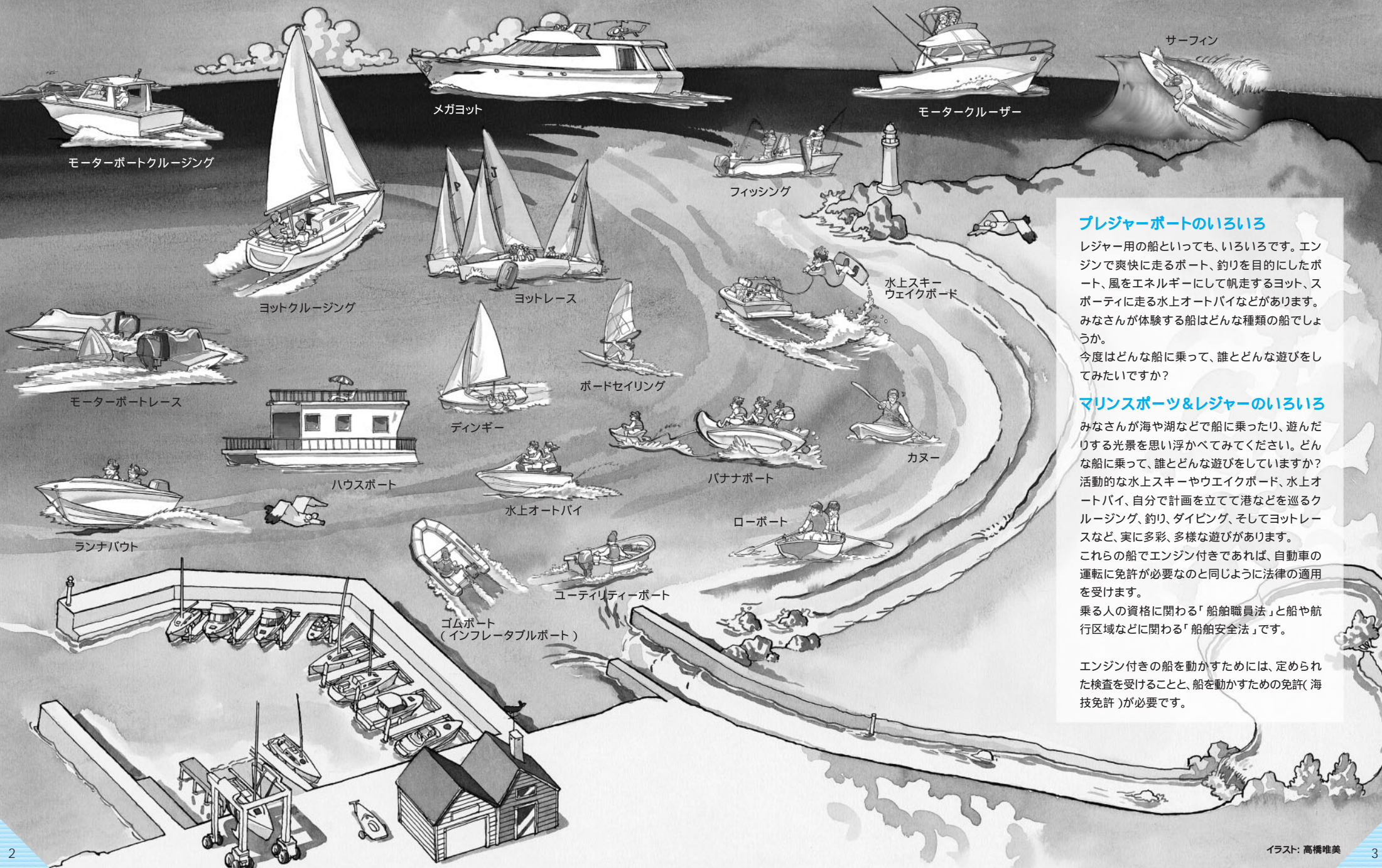


主管: 『実感! マリンウィーク'04』キャンペーン実行委員会
後援: 国土交通省 海上保安庁 水産庁 日本財団

専用ホームページ <http://www.uminohi.com>

この冊子は、競艇の交付金による日本財団の助成金を受けて作成したものです。

マリンウィークから始めよう!



モーターボートクルージング

メガヨット

モータークルーザー

サーフィン

フィッシング

ヨットクルージング

ヨットレース

水上スキー
ウエイクボード

モーターボートレース

ボードセーリング

ディンギー

カヌー

ハウスボート

バナナボート

水上オートバイ

ローボート

ランナバウト

ユーティリティボート

ゴムボート
(インフレーターボート)

レジャーボートのいろいろ

レジャー用の船といっても、いろいろです。エンジンで爽快に走るボート、釣りを目的にしたボート、風をエネルギーにして帆走するヨット、スポーツに走る水上オートバイなどがあります。みなさんが体験する船はどんな種類の船でしょうか。今度はどんな船に乗って、誰とどんな遊びをしてみたいですか？

マリンスポーツ&レジャーのいろいろ

みなさんが海や湖などで船に乗ったり、遊んだりする光景を思い浮かべてみてください。どんな船に乗って、誰とどんな遊びをしていますか？ 活動的な水上スキーやウエイクボード、水上オートバイ、自分で計画を立てて港などを巡るクルージング、釣り、ダイビング、そしてヨットレースなど、実に多彩、多様な遊びがあります。これらの船でエンジン付きであれば、自動車の運転に免許が必要なのと同じように法律の適用を受けます。乗る人の資格に関わる「船舶職員法」と船や航行区域などに関わる「船舶安全法」です。

エンジン付きの船を動かすためには、定められた検査を受けること、船を動かすための免許(海技免許)が必要です。

ボート、ヨットに乗船するとき守ること

1 乗船前

- (1) 会場についたら元気よく「おはようございます」を言しましょう。
- (2) 船長さんや先輩の話しや注意をよく聞き、守りましょう。
- (3) マリーナなど施設内では走りまわらず、並んで順番を待ちましょう。
- (4) ほかの船や機材に触ったりしないようにしましょう。

2 乗船時

- (1) 救命胴衣(ライフジャケット)を正しく着用しましょう。
- (2) 姿勢を低くして、固定物につかまり、一人ずつゆっくり乗りましょう。
- (3) 飛び乗りは厳禁です。



3 乗船中

- (1) 船長さんの指示や注意をよく聞き、守りましょう。
- (2) 船の上では、勝手に動き回らず決められた場所にいきましょう。
- (3) しっかり固定されたものにつかまりましょう。
- (4) 海には絶対ものを捨てないこと。

4 下船時

- (1) 姿勢を低くして、一人ずつゆっくり順番に降りましょう。
- (2) 救命胴衣を元の場所に戻しましょう。
- (3) 船長さんやお世話をしてくれた人たちに「ありがとうございます」を言しましょう。
- (4) ゴミは指定の場所に捨てるか、持ち帰りましょう。

シーマンとして覚えたり身につけたりすること

海に出るまえ、海に出てから。海という自然のなかではどんな人でも道具でもかなうものはありません。謙虚な気持ちを忘れずに、安全第一を心がけましょう。

1 事前に天気予報を確認します

海が荒れたら出港しません。荒れることが分かっていれば出港しません
晴れでも雨じたく、夏でも冬じたく

2 出航前に船やエンジンの点検整備をします

水漏れ
エンジン
燃料や飲料水



3 定められた船の定員を守ります

乗り降りは低姿勢で
無駄な積荷チェック
火気使用は慎重に



4 安全備品を確認します

救命具はすぐ使用できる
消火器はすぐ使用できる
工具・備品はすぐ使用できる

5 行動計画を立てます

最新の海図を使用する
無理な行動計画はたてない
出港・帰港の届出をする

6 海の法規を守ります

横切り船は右側優先
出港船が優先
海技免許は必ず携帯

7 海水浴場には近づきません

港内、他船の近くでは最徐行
引き波で迷惑をかけない
海のマナーを厳守する



8 漁業の妨げをしません

漁船には近づかない
漁場の魚貝類は荒らさない
定置網や漁具には近づかない

9 海や自然は絶対に汚しません

ゴミは持ち帰る
廃油や汚水は流さない
海は汚さない



10 シーマンのエチケットを守ります

困っているときは助け合う
騒いだりしない
船長の自覚をもった行動をする

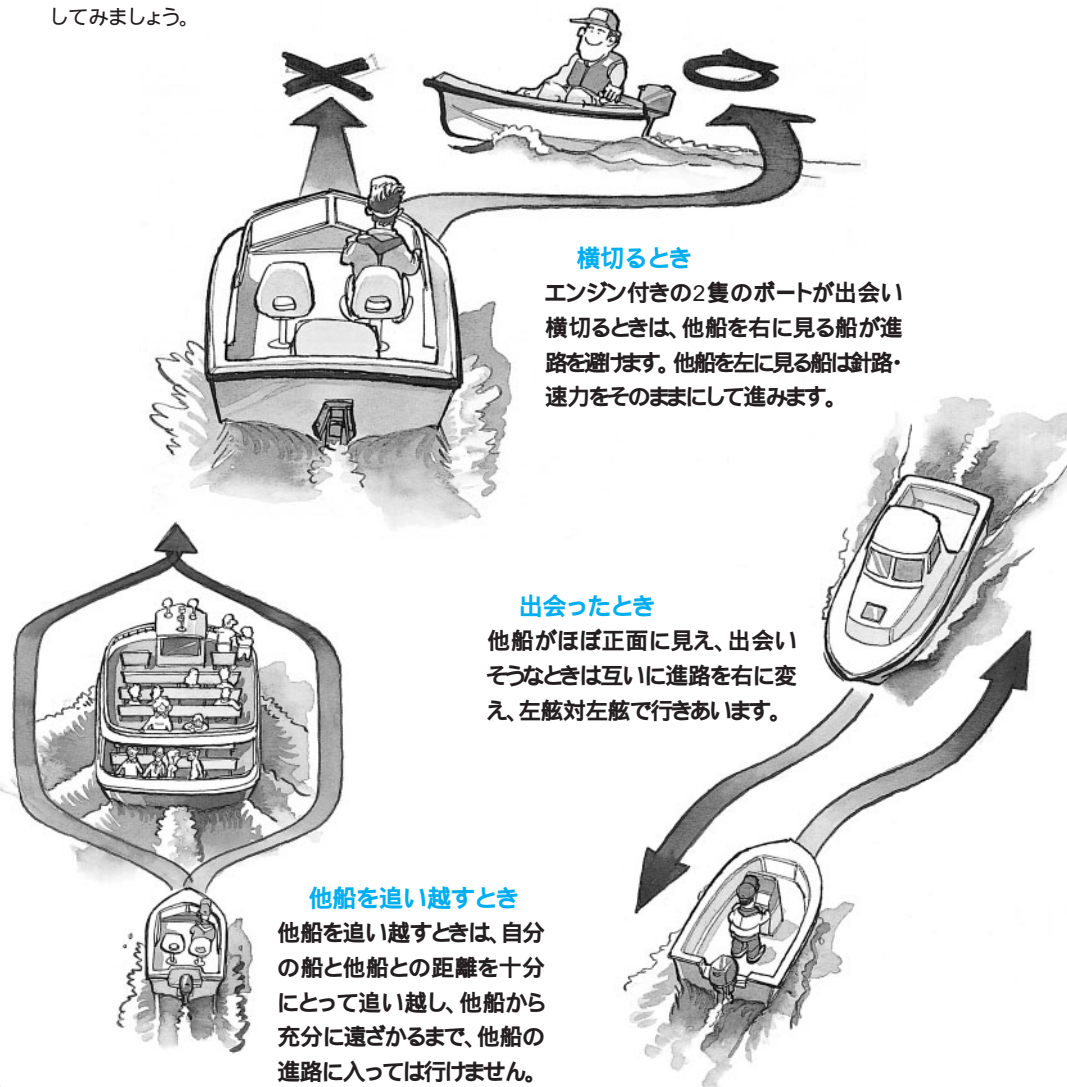
海の『もしも』は118番

海の事件、事故は局番なし電話番号「118」で海上保安庁に通報しましょう。「いつ」「どこで」「なにが起こった」などおちついて連絡しましょう。

海上での交通ルールとマナー

海の交通は『右側通行』です。

港を出るときの「右小回り、左大回り」も、他船と出会った時「右に避ける」も、右側通行が基本になっています。海上航行にはさまざまな法規がありますが、速度の遅い船、動きにくい船を、動きやすい船が早めに避けるようにするのも大切な行為です。海上での事故を防ぐために「見張りの徹底」がとても役に立ちます。みなさんもクルーの一人として見張り役をしてみましょう。



海はレジャーや冒険のフィールドとしてとても魅力ある場所であるとともに、生命を育み、大切な栄養の供給源でもあります。海洋スポーツ、レジャーを楽しむときには、漁業調整規則や地域で決められたことをしっかり理解しておきましょう。

レジャーにはいろいろなルールがありますので、守りましょう

海は漁業者が水産動植物を採取したり、海や磯を畑のようにして資源を管理したり、育てたりして有効に活用している場所です。それらを保護するためにレジャーにもいろいろなルールや約束がありますので、理解して守りましょう。

定置網や建て網、養殖イケスの周辺には近づきません

海上に浮いているブイの下には、ほとんどの場合ロープや網があります。それらに係留されている漁船の周囲にもロープなどがありますから、近づかないようにしましょう。周辺を走るときは減速するなどして、大きな引き波を立てないようにすることも大切なことです。

小さな魚は海に返します

無限とも思える海ですが、魚などを採りすぎてしまったり、手入れをせずに放っておけば荒れてしまうのは畑や牧場と同じです。漁業はつくり、育てる時代です。海の資源を大切に、安定した供給ができるように、卵をかえし稚魚まで育てた魚介類を海に放流しています。釣りを楽しむときも、「とり過ぎない、小さな魚は海に返す」運動に参加しましょう。



ゴミは持ち帰ります。 自然環境をよくします

きれいな海や砂浜をいつまでも残しておくためには、一人一人の心がけが大切です。ゴミを捨てないのももちろん、港や船にゴミを残さず持ち帰ること。ゴミが落ちていたり飛ばされそうになったら、拾い集めて、みんなが来たときより帰るときの方がきれいになっているという気持ちでいましょう。



地球は水の惑星です

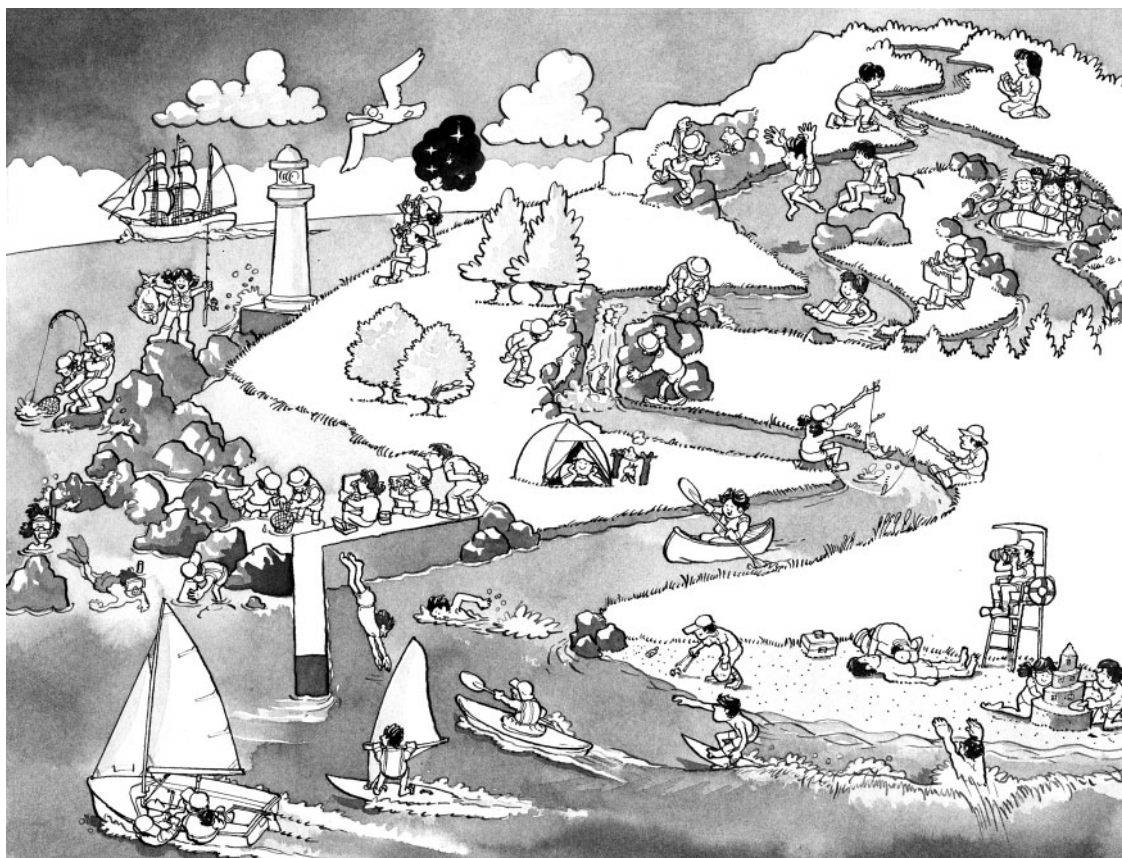
海の表面積は3億6100平方キロメートル。地球の表面積の約70%を占めています。だから地球は「水の惑星」と言われるのです。

この広大な海は、地球の温度、湿度、酸素や二酸化炭素などの大気の状態を、生命を維持するのにふさわしい、比較的安定した状態に保つ大切な役割を果たしています。ちなみに日本の海岸線は3万4千キロメートルです。

海は夢を広げてくれます

海はまた、大きな畑でもあります。魚介類や海藻など、タンパク質やビタミン、ミネラルなど私たち人間に欠かすことのできない貴重な栄養を供給してくれる源です。

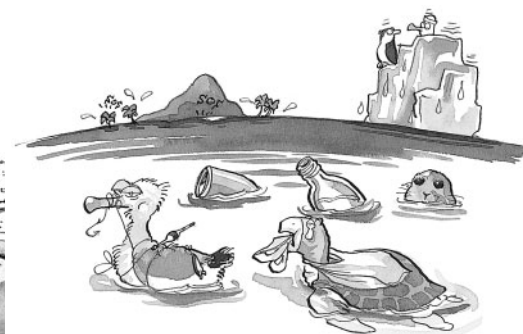
さらに、水辺の生物を観察したり、ボートやヨットなどの道具を使って遊んだりするフィールドでもあり、一人で地球を一周するなど競技や冒険の舞台でもあります。海はたくさんの夢や希望、ときには勇気を与えてくれる心の栄養素でもあります。



海はみんなの宝物

海。このかけがえの無い宝物を、きれいなまま次の世代に残していかなければなりません。ゴミの投げ捨てはもちろんのこと、釣りのえさや道具なども、きちんと持ち帰らなければいけません。一度汚してしまった自然を回復させるには莫大な費用と時間がかかり、元に戻すことはほとんどの場合不可能です。

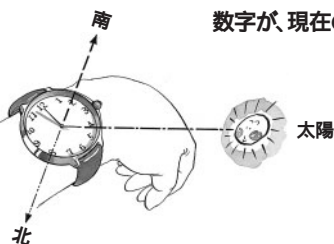
二酸化炭素排出による地球温暖化は、北極、南極の氷を溶かし水位を上げ、その結果、珊瑚礁などが隆起してできた南洋の島々の海岸線や島全体までも水没の危機にさらしています。地球の環境、海の世界については、私たちひとりひとりの日常の問題として考え、自分なりの課題に取り組みましょう。



海の上で方角や時間を知る方法

時計を使って方角を知る

長針、短針のある腕時計で、短針を太陽の方に向けて、12時と短針が指す目盛りの二等分線の延長線がほぼ南です。



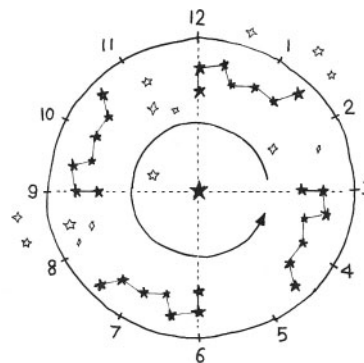
方位コンパスで時間を知る

太陽の方に0度を合わせ、0度から北を指す針の角度を15で割った数字が、現在のおよその時間です。



北斗七星から経過時間を知る

北極星を中心に、星空に時計番を描きます。星は24時間でひとまわりしますので、1区分2時間として、時計板を12区分します。例えば、北斗七星の動きを目安に、1区分動くと2時間が経過したことがたいたい分かります。





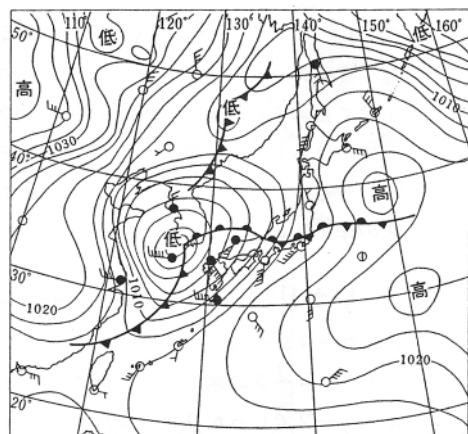
天気図とは

各地で同時刻に観測されたデータ(風向・風速・天候・気圧・気温)などを、地図に記号で記入し、天気分布を分かりやすく表示したもの。ラジオの気象通報(風向・風速・天候・気圧・気温の順に各地のデータを読み上げます)を聞きながら天気図用紙に自分で記入します。天気図は12時間、24時間程度の時間差のある2枚を見比べて、低気圧、前線などの動きを見比べて、天候の変化を予測します。



気象庁が用いる天気用語:

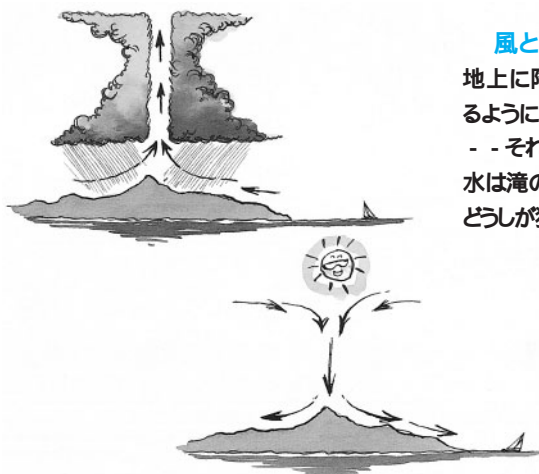
http://www.kishou.go.jp/know/yougo_hp/mokuji.html



気圧と天気

高気圧、低気圧は周囲の気圧に対して高いか低いかという相対的な基準で決まるものです。例えば1,000hPaでも周囲の気圧が1,000hPaよりも低ければそれは高気圧となり、反対に周囲の気圧が1,000hPaより高ければそれは低気圧となります。

低気圧が来ると天気が悪くなり、高気圧に覆われると晴天が続く、というようなことは一般常識として定着していますが、その根拠は低気圧が上昇気流を、高気圧が下降気流を発生させていることにあります。低気圧は上空で空気を吸い込む吸込み口、高気圧は上空で空気を吐き出す排気口だと考えればよいでしょう。



風と気圧

地上に降った雨が高い山から低い谷へと流れるように、空気も高気圧から低気圧へと流れる - -それが風です。陸上の崖のようなところで水は滝のように激しく流れるのと同様に等圧線どうしが狭いところでは、強風が吹きます。

西から変わる天気

日本列島の上空は「偏西風」という強い西風が支配しています。高気圧も低気圧もこの偏西風に乗って西から東へと移動します。これによって、日本列島では天気が西から変わってくるのです。

偏西風の吹く原因は、赤道付近と北極付近の温度の差によって地球全体の空気の対流にあります。南から北へ吹く南風になりそうなところですが、地球の自転のため風は右へ右へと曲げられて西風になります。



天気予報を確認しよう

雲や海の様子を観察して、天気の変化を予測しよう

天気に関わることわざ

『雨 / 下り坂』

笠雲がかかると雨
うるこ雲がでると翌日・翌々日は雨
波状雲がでると雨
梅雨の後期に豪雨あり
高積雲に穴があくと雨
遠くの山が近くに見えると雨
蒸し暑い南風、翌日は雨

雨ガエルが鳴くと雨
大南風は大火をよぶ
(百戸以上の焼失の場合)
朝焼けは雨
日曇りがでると翌日は雨
月曇りがでると翌日は雨
鐘の音がよく聞こえると雨

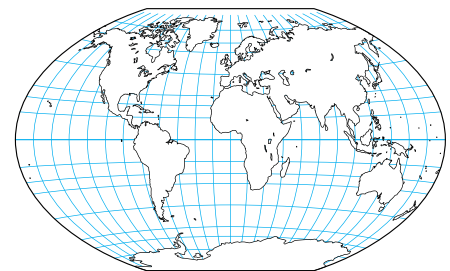
『晴れ / 回復』

雲の張りが南西から北東にのびているとき晴れ
夕焼けは晴れ
雷が鳴ると梅雨が明ける

海の基礎知識 用語や単位など

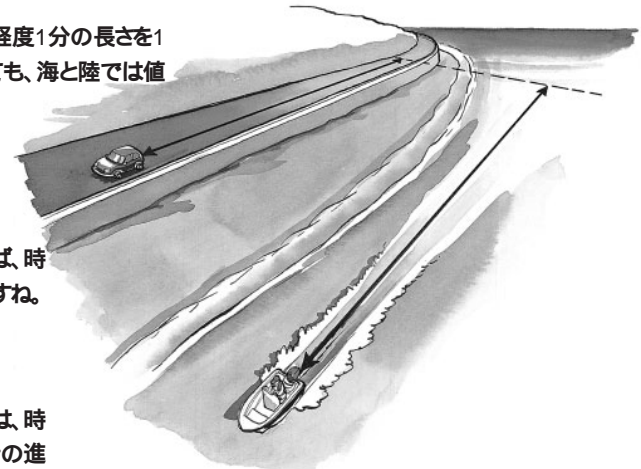
海上での自船の位置は緯度 / 経度

陸上のように、1丁目1番地5号などや国道1号線といった表し方のできない海上では、自分の船や目的地の位置を表すのに、緯度・経度を用います。
 経度は赤道を0度として南北に90度ずつで、北緯、南緯で表します。緯度はイギリスのグリニッジ天文台を通る子午線を0度として東西に180度としています。東経、西経で表します。



距離は海里(マイル)

海では1マイルは1.852km。子午線上の経度1分の長さを1マイルとしています。同じ1マイルといっても、海と陸では値が違います。

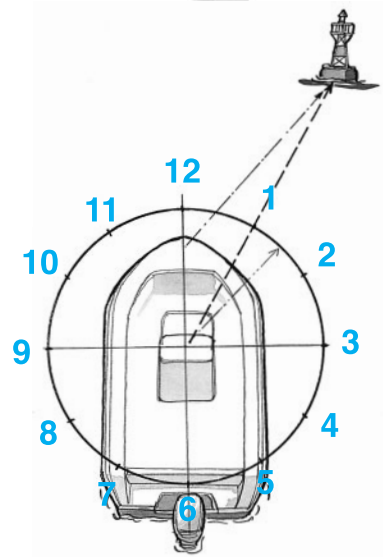


艇速はノットで

1ノットは1時間に1マイル進む速度です。
 1マイルは1.852km。艇速10ノットであれば、時速約18kmです。自転車のスピードくらいですね。

自船上では時計の文字盤

自分が乗った船を中心とした方向や位置は、時計の文字盤をなぞった表し方をします。船の進行方向(船首方向)を12時、後方(船尾方向)を6時とします。この前後方向については船上のどの位置にいても変化はありませんが、90度(進行方向の右)と270度(同左)は、船の前にいるときと後ろにいるときでは少しずつ変わってしまいます。大きな船を思い浮かべてみると分かりやすいでしょう。



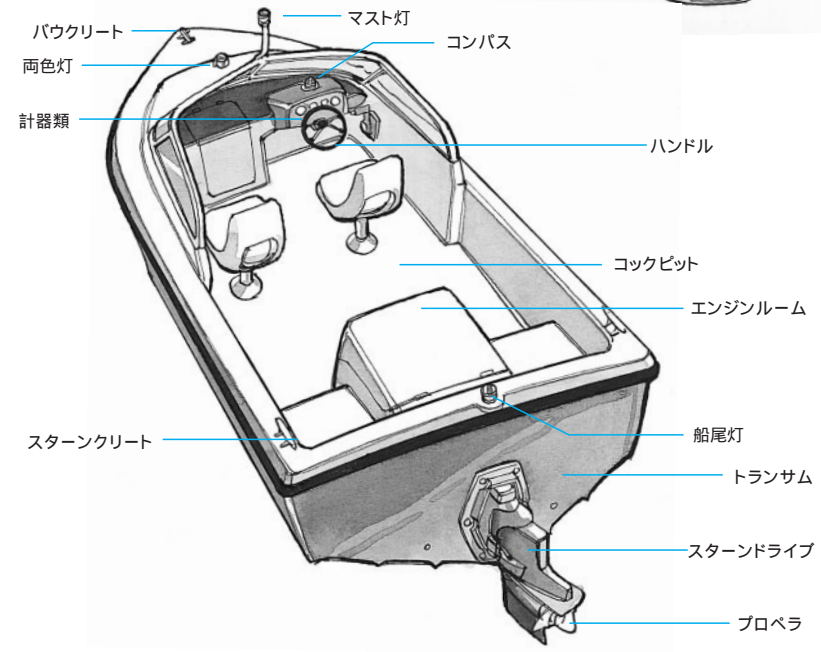
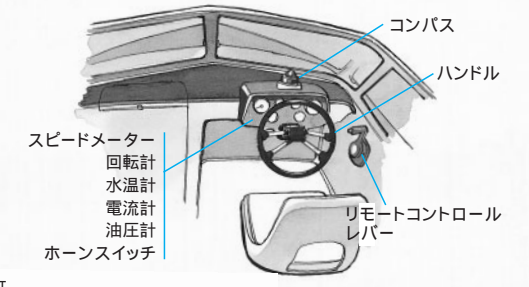
船の後方で舵をとっている人から見ると右真横、つまり3時に見えていても、前で見張りをする人には5時方向に見えています。こうした時は、見張りの人は、舵を取る人から見える方向を想像して、「3時からボートが来ています」という具合に知らせます。

海図から得られる情報

一般的に海図といえば、縮尺によって、5つ(総図・航洋図・航海図・海岸図・港泊図)に分類されます。
 ボートなどで利用するのは主に航海図、海岸図です。海図からは、地形、港などの位置や距離のように陸の地図と同じ情報に加え、海底が土なのか泥なのかなどの底質、水深、灯台など航路標識の位置や種類、潮流、危険物などが分かります。航海の安全確保や、港での停泊のための情報が盛り込まれています。

モーターボートの各部名称

モーターボートは、回転するプロペラが水を後方に押しやる力によって走ります。ハンドル操作はクルマと同じで、右に回せば右に方向転換します。ただしブレーキはありません。小型ボートでは、エンジンの回転数を調整するクラッチ付きのスロットルレバーでコントロールします。



ボート・ヨットに関わる法規



船舶、構造、施設に関する法

小型船舶登録法:小型船舶の所有権を公証(特定)するための法律

船舶安全法:構造・施設の検査、航行区域・最大搭載人員などについて

乗員に関する法

船舶職員及び小型船舶操縦者法:操縦免許・乗組員の資格などについて

小型船舶操縦免許

日本において一般的にエンジン付きの乗り物を操縦(操船)するためには、法で定められた免許が必要です。

プレジャーボートはもちろん例外ではなく、エンジン付きのボート、ヨット、水上オートバイなどを操船するには、小型船舶操縦免許を取得し、それを所持しなければなりません。

これを定めた大もとの法律は「船舶職員及び小型船舶操縦者法」です。

交通に関する法

海上衝突予防法:一般海域(全ての海域)に適用される一般法

海上交通安全法:東京湾、伊勢湾、瀬戸内海について適用される特別法

港則法:港湾に適用される特別法

都道府県条例:特定の河川などに都道府県が定めた水上交通規則や港湾施設の利用上の規則

海上交通ルール 航海三法

海上では右側航行が基本です。これは「海上衝突予防法」で定められていて、船舶の衝突を予防する目的で国際的に統一した国際法で全ての海域に適用されます。船の両舷、前後などに設ける灯や音響信号などについても定めています。この「海上衝突予防法」と「港則法」「海上交通安全法」が航行に関わることから航海三法ともいわれています。

海難の原因研究

海難審判法:海難の原因を明かにし、その防止を目的に定められた法

海洋汚染

海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律

その他

港湾法:港湾の秩序ある整備と適正な運営を図ると共に、航路の開発、及び保全を目的とする

河川法:河川の管理などに関する基本法

漁港法:港の規模などで漁港を第1種から第4種及び特定第3種の5種類に分け、円滑な利用を促進する。

漁業法:漁業生産に関する基本制度を定め、漁業の生産力発展などを目的とする法律



『実感! マリンウィーク'04』実行委員会 構成団体

(社)日本マリーナ・ビーチ協会 <http://www.jmba.or.jp/>

マリーナ及びビーチの施設整備、管理・運営・改善の調査研究。優良マリーナの審査・認定・更新業務やマリーナ・安全管理者養成講習会の開催、認定、更新業務。マリーナ施設整備資金融資の斡旋業務。また、マリンウィーク(全国主要マリーナでの少年・少女体験乗船)の実施など、マリーナ・ビーチを基地とする海洋性レクリエーションの啓発・普及活動。

【東京都中央区新川1-23-17マリンビル8階 〒104-0033 Tel. 03-5566-1530】

(財)日本海洋レジャー安全・振興協会 <http://www.kairekyo.gr.jp/>

小型船舶操縦士国家試験の実施やプレジャーボートの海難に関する民間救助体制(BAN)の整備と運営、またフィッシング・ボードセーリング・サーフィン海上安全指導員の養成/認定登録などプレジャーボートの安全に関する知識の普及及び教育、安全、広報に関する現場活動。

【神奈川県横浜市中区太田町4-7コーワ太田町ビル2F 〒231-0011 Tel. 045-228-3061】

(財)日本セーリング連盟 <http://www.jsaf.or.jp/>

セーリングスポーツの国内競技会の開催、後援及び援助やオリンピックをはじめ、国際競技会への選手及び艇の選考、推薦及び派遣。またセーリングスポーツに関する規則の管理及び運用の他、指導員及び審判員の養成及び資格認定など、セーリングスポーツの競技力向上を含めた普及及び指導。

【東京都渋谷区神南1-1-1岸記念体育館内304号室 〒150-8050 Tel. 03-3481-2357】

(社)フィッシャリーナ協会 <http://www.fisharina.or.jp/>

漁港及び漁港周辺海域での漁業と海洋性レクリエーション活動との共存を目指した総合施設(フィッシャリーナ)の整備、利用及び運営に関する調査研究、並びに啓発普及活動を行い、漁業の振興及び地域の活性化に資すると共に、国民生活の向上に寄与すること。

【東京都千代田区神田多町2-9田中ビル4階 〒101-0046 Tel. 03-3255-5118】

(社)日本舟艇工業会 <http://www.marine-jbia.or.jp/index.html>

舟艇に関する内外需要の振興を促進する活動や、舟艇に関する展示会(東京・大阪ポートショー)その他各種事業の開催。また舟艇工業の技術の向上に関する調査研究。舟艇の安全確保、環境問題、保管環境その他利用の円滑化に関する調査研究。その他プレジャーボート製品相談室の運営など。

【東京都中央区銀座2-5-1浅野第一ビル6階 〒104-0061 Tel. 03-3567-6707】